

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
リーディング ハイスクール 事業の推進 ① 中高一貫教育の推進	(全校レベル)	中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。	評価指標 「高校生は中学生の模範となるような学校生活を送れている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。	評価指標による達成度 「高校生は中学生の模範となるような学校生活を送れている」と答えた生徒57%, 保護者86%, 教職員81%	総合評価  B  (所見) 評価指標上の目標値は、すべて達成できた。中高合同で行事・作業・部活動などを行うことで、中高生の交流が図れ、お互いが刺激・向上しあえた。ただ、依然として生徒・保護者・教職員間の意識の乖離が大きい。	保護者86%の評価は学校に対する期待の表れと思われる。保護者の先生方に対する思いをくんで欲しい。部活動を中高合同で練習するのはいいことだと思う。お互いが刺激しあうことで生徒に自信ができてもらえる。	①学校行事を精選し、行事を通じて本校の活性化が図れるように、効果的な取組を一層検討していく必要がある。そして、高校生、とりわけ城ノ内中学校以外から城ノ内高校に進学してきた生徒に、一貫教育のメリットが感じられるようにする。 ②生徒間だけでなく、教職員間の相互交流をもっと活発に行い、生徒情報を共有するなど連携を密にする。
	(下位組織レベル)	中学生と高校生の関係は良好である。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒65%(+10p)			
			活動計画 ①中高の職員が、共通理解を図れるように協議、研修の場をもつ。 ②吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ③城ノ内祭等の行事を中高合同で開催する。 ④一部の部活動で中高合同の練習を行う。	活動計画の実施状況 ①中高合同で職員会議・運営委員会や人権教育研修会・教育相談研修会などを開催し、共通理解を図った。 ②吉野川堤防清掃作業を中高合同で3回実施した。 ③城ノ内祭・予餞会・防災避難訓練・人権教育映画会・総合学習発表会などを中高合同で開催した。 ④美術部や弓道部など8部で合同練習を行った。			
リーディング ハイスクール 事業の推進 ② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル)	授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	評価指標 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒85%(+8p), 保護者81%(-3p), 教職員93%(+5p)	総合評価  A  (所見) 各評価指標とも目標をクリアし、良好な評価である。ただし、「学力を伸ばす教育の実践」の保護者評価が低下している。今後とも授業改善に対する取り組みや、進学実績向上の為の様々な取り組みを続けていくことが必要であろう。 「進路・悩み相談」の評価は生徒・保護者とも向上したが、教職員のポイントが低下した。昨年度から実施している城ノ内祭後の面談週間は定着したものの、新たな取り組みの印象が薄かったことも一因と考えられる。さらに、新たに転任して来られた教職員への進路指導方針の説明や進路指導体制の周知をいっそう充実させる必要性を感じた。 一方、「希望を尊重した進路指導」の項目では、新課程入試2年目ということもあって、生徒・保護者への浸透度も増した。しかし、情報発信の仕方や生徒一人一人の進路希望の把握にはまだまだ工夫が必要である。 進路講演会を学年単独でなく、4・5年合同でのワークショップ型式で実施した。生徒の反応は概ね良好であり、今後も継続していきたい。今年度は、午前には学校行事が行われた日の午後を中心に新たに授業時数を確保し、その充実を図った。	早期補習を無くしたことにより、生徒はしっかりと朝食を取って欲しい。外部講師の活用はいいことである。講演内容を進路選択に生かして欲しい。 進路実績等の評価は進路指導課を中心に行っているようであるが、さらなる成果を期待したい。	①センター試験に変わる新テストの導入が議論されるなど、進路指導の面でも大きな変化が待っている。いち早く正確な情報に接し、よりよい進路指導体制を構築するためにも、関係教職員の情報交換の機会を増やす必要がある。 ②補習の実施時期や実施方法については、今後再検討していくことになるが、模擬試験後の復習を兼ねた弱点補強の要素も取り入れたものにしていきたい。 ③学習実態調査や進路希望調査など様々なデータの有効活用の方策を再検討する。 ④進路情報に対する生徒や保護者のニーズの把握に努め、きめ細かな進路指導体制を確立する。 ⑤週35時間授業に適した教育課程の検討を引き続き行うとともに、授業時数を確保し、先取り学習や単位制の有効な生かし方を確立する必要がある。
	(下位組織レベル)	研究授業・授業研究会の実施。	「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が70%以上。	「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員100%(+2%)			
		進路別集会や学年集会の実施。	「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができています」と答えた生徒・保護者が70%以上。	「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができています」と答えた生徒83%(+11p), 保護者79%(+6p)			
		進路相談体制の確立。	「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒79%(+6p), 保護者76%(+3p), 教職員84%(-11p)			
			活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年7回実施した。 ②授業評価を2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年6回, 5年9回, 6年11回) ・進路講演会(4年3回, 5年3回, 6年1回) ・出張講義(4年2時間, 5年2時間) ④学習実態調査(4年9回, 5年9回, 6年6回)及び、進路希望調査(4年3回, 5年4回, 6年2回)実施した。			

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒77%(+10), 保護者90%(+3p), 教職員95%(+16%)	総合評価 <b>A</b>	子供はスマートフォン所持などについて、他人や他の家庭と比較している。各家庭にはそれぞれの子供に理解させる必要がある。いじめアンケート以外にも、面談などで早期発見に努めているようなので、今後も継続してもらいたい。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒79%(+7p), 保護者90%(+2p), 教職員81%(+11p)		
		活動計画 ①人権ホームルーム活動の研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会等を実施する。 ④職員研修を充実する。 ⑤学校生活に関するアンケートを年2回実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施するとともに、毎回、事前研究会を学年別に実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生を対象に人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の校内研修会を2回、高校のみの校内研修会を1回、地域研修会を1回実施した。 ⑤いじめや体罰はもとより、学校生活での悩み等について、生徒全員を対象にアンケート調査を2回実施した。		①教職員の評価上昇を今年度のこのみに終わらせるのではなく、今後は研修などで習得した内容を教育活動全般に十分フィードバックできるように、ホームルーム活動や普段の授業でも折に触れ人権尊重の精神を伝えるようにする。 ②一方生徒の評価について、人権感覚が少しずつ向上してきている、と捉えることもできるが、定期的実施しているアンケート調査を活用し、生徒の悩み等を把握し迅速に対応する体制作りを学校全体で進める。 ③個人人権課題、中でもインターネットによる人権侵害の問題については、年度のできるだけ早い時期に講演会等を設け、生徒や教職員に周知する機会を作ることにより、いじめの未然防止に努める。
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者78%(+4p), 教職員84%(-4p)	総合評価 <b>B</b>	車の運転時に、横断歩道で一旦停止をすると、「すみません」と言ってくれた男子生徒がおり、うれしかった。生徒同士の挨拶はよくできているが、今年は先生方が特に挨拶について話を増えたということなので、教員の評価が低くなったと思われる。
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「城内生としての自覚ある行動」の推進。 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。	「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「城内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「挨拶の励行ができている」と答えた生徒59%(-7p), 保護者85%(+2p), 教職員37%(-14p) 「城内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒77%(+9p), 教職員81%(+9p) 「時間厳守ができている」と答えた生徒75%(-4p), 保護者93%(+1p), 教職員93%(+5p) 「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生徒71%(+3p), 保護者91%(+1p), 教職員88%(+7p)		
		活動計画 ①挨拶指導を徹底する。 ②遅刻者は「遅刻カード」を提出する。 ③自転車の駐輪のしかたを指導する。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。 ⑤家庭との連携を図る。	活動計画の実施状況 ①全教職員が直接指導を行った。 ②授業遅刻も含めたすべての遅刻者は「遅刻カード」に理由を記入し、教頭の指導を受けてから入室させた。 ③年度当初は係の者が、それ以後は日直の教員が直接指導を行った。また、盗難防止のため自転車の鍵かけを呼びかけた。 ④定期的に、全校集会や学年集会で服装頭髪検査を実施した。 ⑤PTA総会や学年部会、及び三者面談時に、生徒指導に対する理解と協力を要請した。		①気持ちよく挨拶することや身だしなみを整えることが社会生活を送る上で大切であることを、学校生活の中で繰り返し指導していきたい。 ②服装指導についても保護者と生徒との意識に差が見られることから、家庭の協力を得るため情報発信をするなど、連携を密にした指導が必要である。 ③時間厳守については、本校の伝統である5分前精神をさらに徹底させるため、適切な方策を講じていきたい。 ④「5のつく日は5分前登校の日」の活動を広め、常に余裕を持って登校することが交通事故防止の観点からも重要であることを生徒・保護者に共通理解を図る。

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針
防災・安全教育の徹底	(全校レベル) 防災・安全教育を徹底し、災害へ備えるとともに、事故防止に努める。	評価指標 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒72%(+15p)、保護者83%(+4p)、教職員79%(+2p)	総合評価 (評定) <b>B</b> (所見) 評価指標関連については、概ね達成できた。「防災意識の高揚と、防災への取組推進」については、保護者・教職員は約8割が評価しているが、生徒は約7割である。防災避難訓練は2回実施し、スムーズに行うことができた。「交通ルールや交通マナーの遵守」に関しては昨年度より大幅にポイントが改善した点は評価できるが、依然として芳しくない。苦情や交通事故もあり、交通安全意識の向上は喫緊の課題である。	雨天時の自転車通学において、生徒は雨合羽を着用しており、傘差し運転が無くなったことはうれしく思う。路側帯を右側通行して迷惑をかけているところを見かける。また、広い歩道を並列で進む自転車も見かける。交通安全には今後も継続した指導が必要である。	①防災・安全教育への意識が十分でないため、学校全体で継続して防災・交通安全啓発を推進するとともに、命の大切さを常に意識した教育を推進する。 ②交通マナーアップ運動や交通安全教室をさらに充実させ、安全意識の高揚を図っていく。特に登下校時の安全に向けて、立哨指導も拡充し事故防止につとめる。
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒65%(+22p)、教職員72%(+14p)			
	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②毎月1回交通マナーアップ運動を行う。 ③交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(地震・津波、火災)を2回、Jアラートによる退避行動訓練を2回実施した。 ②毎月1回、生徒会役員・生活委員と教員による交通マナーアップ運動を展開した。また警察と連携し、自転車運転マナーや防犯意識向上のキャンペーンを行った。 ③外部講師による交通安全教室を実施した。				
環境教育の推進	(全校レベル) 環境教育への取組を推進し、地域の環境美化にも貢献する。	評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒75%(+13p)、教職員81%(+18p)	総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) 清掃についての指標は、大幅に向上し目標値を達成することができた。今年度より清掃の時間に音楽を流して清掃への取り組みを促し、少しでも快適な清掃活動ができるよう工夫したことで生徒の意識も向上したと思われる。また、ゴミの分別についても概ね目標値を達成した。各クラスにペットボトルと空き缶の分別用ゴミ箱を導入することによって、教室段階できちんと分別ができ、ひいては教室内の環境美化にもつながったのではないと思われる。	音楽で心地よく掃除ができていのかもしれない。先生方が率先して掃除に取り組んでいる姿を見たことがある。いいことだと思う。落ち葉の掃除は大変であろう。	①年度当初、清掃の手順を丁寧に確認し指示する。そして教職員が生徒と一緒に熱心に清掃活動に取り組むことが必要である。 ②ゴミの分別や節電・節水についても、こまめにチェックして回り、その都度気付いたことを注意しながら、教職員の意識を高めると同時に生徒の意識を改善する働きかけを継続して行う。
	(下位組織レベル) 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒72%(+14p)、教職員88%(±0p)			
	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②吉野川堤防清掃活動や学校周辺清掃活動に年3回以上取り組む。 ③日常的に節電・節水に努める。	活動計画の実施状況 ①教室、職員室等、全ゴミ箱で分別回収の徹底に努めた。 ②吉野川堤防清掃活動を、中高合同で、7月、10月、12月の3回実施した。また、外庭清掃にも力を入れ、30分の大掃除を3回、除草作業も2回実施した。 ③整美委員会を中心に水漏れか所のチェックや水道の蛇口点検を行い、クラス生徒への節電・節水を喚起した。				
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒88%(+4p)、保護者90%(+2p)、教職員88%(+2p)	総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) 評価指標上の目標値は、すべて達成できた。学校行事はほとんどの生徒が楽しみにしており、主体的・積極的に取り組めたことが高評価に繋がったと思われる。部活動は、7時間授業により活動時間が少なくなったが、放課後や休日に生徒が主体的に練習に取り組む、全国大会で入賞するなど、成果をあげた部もみられた。部活動と勉強の両立に関しては、努力をしている生徒が多い。	よく頑張っていると思われる。	①7時間授業の定着に向かう年となる。今年度の部活動の成績は前年度からの蓄えであるかもしれない。7時間の影響はこれからが本番であるかもしれない。部活動と勉強の両立ができるよう、放課後の部活動をする時間を有効に活用できるよう集中力を高く維持できることが必要である。また、行動の効率をよくして、活動時間の短縮を補う必要がある。 ②学校行事においては、生徒の安全に留意して計画する。特に城ノ内祭模擬店における今年度の指導を定着させ、食中毒の危険性をさらに低減させる。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実を図る。	「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒81%(+5p)、保護者86%(+5p)、教職員81%(+14p)			
	活動計画 ①学校行事の内容を充実させる。 ②部活動を活性化させる。 ③考査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。	活動計画の実施状況 文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加した。 ②部活動加入率は4年90%、5年93%、6年83%[4月末現在] ③全部活動で、考査期間中の活動を届出制とし、限られた時間のみの実施とした。				

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日の実施する。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者91%(+6p)	総合評価 (評定) <b>A</b>	中学生体験入学の時に、高校生からの生の声を聴かせることが有効であると思われる。 今年から高校説明会を開催されているが、高校からの志願者が増えるよう、生徒や保護者に本校の良さを口コミで広めてもらう努力が必要である。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。	ホームページの更新にすべての教員が関わり、少なくとも週に1度は更新する。	多くの教員がホームページの更新ができるようになり、学校全体として平均週5回以上は更新することができた。		
	中学生体験入学や学校公開の日の実施。	「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。	「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者96%(+7p)、教職員93%(+10p)	(所見) 評価指標上の目標値は、すべて高い水準で達成できた。 体験入学、文化祭や学校公開は本校理解に効果的であると判断できる。今後も継続していく必要がある。 本年度は新たな取り組みとして、9月と12月の2回、本校において中学生とその保護者、教員対象の高校説明会を開催し、学校を理解してもらうのに役立った。 また、ホームページも活発な情報発信を継続できており、内容も充実している。このため、ホームページへのアクセス件数も高い水準を維持している。 スクールガイドの掲載写真をさらに充実することができた。	①本校の理解、周知に向け、中学生体験入学の参加者がさらに増えるように、日程を検討するとともに、内容の一層の工夫充実を図り、広報活動にも力を入れる。 ②懸案である高校からの入学志願者増を実現するために、中学校での進学説明会でリーディングハイスクール事業等の積極的なPR活動を行うとともに、本校での高校説明会開催を継続する。 ③ホームページを更に充実したものにする。 ④スクールガイドをさらに充実させていく。
	城ノ内祭の公開。	「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒90%(+3p)、保護者96%(+8p)、教職員93%(+9p)		
		活動計画 ①ホームページを随時更新する。  ②中学生体験入学を実施する。 ③「学校公開の日」を実施する。 ④文化祭を公開する。 ⑤スクールガイドを発行する。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は587,445回(昨年比39%増)、総アクセス数2,242,304回(2016/2/5現在) ②中学生体験入学への参加者364名。 ③学校公開の日への参加者555名。 ④文化祭を公開し、1689名が来校した。 ⑤スクールガイドを改訂した。		
学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒85%(+7p)、保護者90%(±0p)	総合評価 (評定) <b>A</b>	生徒の評価が高いのは素晴らしい。 運営委員会以外の各組織がさらに活発に機能するよう検討して欲しい。
	(下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに、各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上	「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒91%(+3p)、保護者95%(+1p) 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者85%(+1p)、教職員98%(±0p)		
		活動計画 ①運営委員会を毎月1回開催する。  ②定期的に学年会を開催する。  ③中高合同PTA役員会を年4回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況 ①運営委員会を毎月1回実施し、各課題について検討・協議した。(年12回開催) ②学校行事やHR活動の事前打ち合わせ、生徒理解など、必要に応じて学年会を開催した。 ③中高合同PTA役員会が4回開催され、活発な議論がなされた。		①PTA総会や城ノ内祭において、多くの保護者が来校されるが、駐車場の確保が大変難しい。とくに、雨天時や天候が危ぶまれる際に、保護者への連絡を迅速かつ確実に行う方法として、やまも通信の活用等を保護者等に呼びかける必要がある。 ②生徒が主役の学校教育活動が展開できるように、さらに学校と保護者の理解を進め協力体制を強める。 ③7時間授業との兼ね合いも考え、課内会議や学年会、教科会の場を増やすために、協議内容の精選をはじめ、教職員間のより一層の共通理解を図る。 ④運営委員会のあり方を再検討する。